

食品ロス削減月間（10月）から実施する集中的な取組について

1 要旨・目的

令和5年度に策定した「広島県食品ロス削減の取組方針」（以下「取組方針」という。）に基づき、今年度も食品ロス削減月間である10月に、事業者、関係団体及び市町と連携・協働し、食品ロス削減に係る取組を集中的に実施する。

2 現状・背景

- 取組方針においては、県民と事業者の両者に働きかけを行うこととしており、特に事業者は、食品ロスの削減のための課題と自らの取組を消費者に伝え、消費者の理解を促進するための重要な役割を担っていることから、事業者の取組に対する支援を重点取組として推進していくこととしている。
- このため、昨年度は、事業者と連携した取組として、「“もったいない”をいっしょに減らそう食ロス広島アクション」をキャッチコピーに掲げ、「手前どり」「使い切り」「食べ切り」の3つのアクションをターゲットとしたキャンペーンを実施した。
- 今年度は、食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針（R7.3.25変更）で追加された食べ残しの持ち帰りの促進に向けた実証を飲食店と連携して行うとともに、「使い切り」をターゲットとしたキャンペーン等の取組を実施する。

【キャッチコピー及びイメージキャラクター】



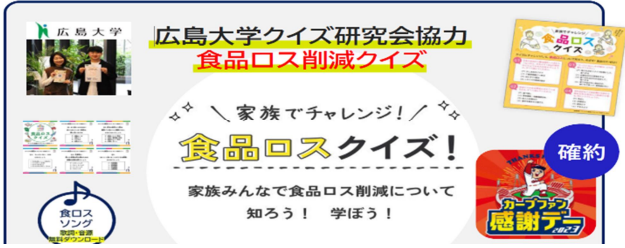
※食糧を貯蔵し計画的に食べる習性のあるリスをモチーフに、「手前取り」や「使い切り」などの取組を紹介。

3 取組方針を踏まえた実施計画

【方針】取組の方向性		【方針】具体的な取組	R7 実施計画
食品ロスの発生抑制	①普及啓発・学習の振興等	○消費者に対する期限表示の正しい理解の促進	○食ロス Web クイズキャンペーン【新】
		○消費者及び事業者に対し、外食時の食べきり・持ち帰り等に係る啓発	○市町、キャンペーン参加店舗等と連携した啓発
		○消費者に対する事業者が行う商慣習見直し等を含めた食品ロス削減に資する取組についての理解促進	・SNS 等での発信 ・食ロスソングの作成 ・学生と連携した啓発動画作成 ・イベント参加等
	②食品関連事業者等の取組に対する支援【重点取組】	○事業者による取組の推進(手前どり、1/3 ルールの緩和、外食時の食べきりや持ち帰り等)	○国の食べ残し持ち帰りガイドライン(R6.12)を踏まえた mottECO (モッテコ) 実証事業の実施【新】
		○事業者の取組に対する消費者理解の促進	○小売店と連携した使い切りキャンペーンの実施【新】
		○アプリを活用したフードマッチングの促進	○食品ロス削減アプリ「TABETE」の普及【新】
食品としての有効活用	③未利用食品を提供するための活動の支援等	○事業者が取り組んでいる消費者啓発活動(手前どりの促進など)、食品ロス対策の横展開の実施	○県 HP で事業者の取組を紹介
		○事業者が安心して食品の提供を行える環境づくり	○事業者ヒアリングにより、要望を調査し、寄附環境を整備
食品ロス発生状況の把握	④実態調査の実施	○食品ロス発生量の推計方法を確立	○目標値を設定し、次期環境基本計画に盛り込む
		○食品ロス発生量推計の実施	○市町組成分析調査の推進、予算支援
		○本県における食品ロス削減目標の設定	

4 令和7年度の主な取組内容

(1) 食ロス Web クイズキャンペーン

事業目的	県内全域から Web 等により参加できる食品ロス削減クイズを実施することで、県民に食品ロスの問題を認知してもらい、意識向上を図ることで、食品ロス削減の行動に繋げる。
内容	・広島大学クイズ研究会の作成した食品ロス削減クイズを Web やイベント等(11/23 カープファン感謝デー等)で実施。 ・クイズ参加者には、併せて、食品ロス問題に対する意識等のアンケート調査を実施(回答者の中から抽選で25名に広島牛を贈呈)。 
実施期間	令和7年10月1日～11月30日

(2) mottECO (モッテコ) ※1 実証事業

事業目的	国の「食べ残し持ち帰り促進ガイドライン（令和6年12月25日）」において示された「mottECO（モッテコ）」の普及に向けて、本県においても実証事業を実施することで、今後の普及拡大に向けた課題や、有効な手法を検証する。
内容	・県は、協力店に、ポスター、チラシ及び持ち帰り容器等を提供。 ・協力店はポスターを店内に掲示。お客様から希望があった場合は、持ち帰りの可否を判断し、可能な場合は注意事項を説明した上で、容器を提供。 ・協力店及び持ち帰りをを行ったお客様に対し調査を行い、課題等を整理する。    ポスター チラシ 持ち帰り容器（バガスモールド※2）
実証期間	令和7年10月1日～31日
協力店	10店舗（リーガロイヤルホテル広島、徳川、田舎茶屋わたや等）※調整中
協力市町	広島市、福山市、東広島市、廿日市市

※1 mottECO：飲食店で食べきれなかった料理を「お客様の自己責任で」持ち帰る行為の愛称

※2 バガスモールド：サトウキビの絞りカス「バガス」からできたエコ容器

(3) 使い切りはじめよう！キャンペーン

事業目的	家庭で捨ててしまいがちな食品として最も割合が高い野菜類（R6 消費者意識調査結果）について、青果購入者に対する鮮度保持袋の配布、県HPやポスター等での「使い切り」に関する情報発信により、使い切りに対する意識向上を図る。
内容	・協力店において、青果購入者等に鮮度保持袋を配布し、使い切り実施の働きかけを行う。（予定配布数：1,000セット×12店舗） ・鮮度保持袋の使用効果の高い青果等について、山陽女子短期大学と連携した調査を実施し、調査結果について県HP等により周知。 ・鮮度保持袋を使用した感想について、アンケート調査を実施（回答者の中から抽選で25名に広島牛を贈呈）。 ・協力店やイベントにおいて、「使い切り」の情報を掲載したポスターを掲示。  
実施期間	令和7年9月28日～11月30日 9月28日フレスタ廿日市住吉店においてキックオフイベントを実施
協力店	12店舗（広島県スーパーマーケット協会、広島県生活協同組合連合会、(株)フレスタホールディングス、(株)ハローズ、(株)そごう・西武 そごう広島店）

(4) フードシェアリングサービス「TABETE」と連携した食ロス削減の推進

「TABETE」は、店舗での売れ残り等そのままでは廃棄されてしまう食品と購入希望者とのマッチングを行うアプリであり、ひろしま地球環境フォーラムや市町等と連携し、県内における「TABETE」の利用を通じた食品ロス削減の普及啓発や登録店舗数増加への協力などを行う。



(5) その他（学生、事業者、市町と連携した啓発）

啓発にあたって、多様な主体と連携して取り組む。

ア 学生と連携した啓発動画の発信（10月～3月）

- ・高校生や大学生による食品ロス削減や食への感謝をテーマにした動画を作成し、学生間への広がりや親世代をターゲットとした食品ロス削減に関する理解と実践の促進を行う。
- ・動画は、ウェブ、県HP及びイベント等で発信する。
- ・連携先：広島県立総合技術高校、佐伯高校、広島文教大学、山陽女子短期大学等

イ 事業者との連携イベント（10月～11月）

- ・広島市内及び福山市内の店舗において、食品ロス削減に繋がるイベントを実施する。
- ・参加事業者については、食品ロス削減の取組を業界全体に広げるため、小売業だけでなく、卸売業、製造業等にも参加の働きかけを行う。
- ・イベントにおいて、県民に対して、食品ロス問題に対する啓発及び意識調査等を実施（回答者の中から抽選で10名に広島牛を贈呈）。
- ・実施店舗：ハローズ神辺モール（10/30）、フレスタモールカジル横川（11/29 調整中）

ウ 市町との連携

取組内容	実施市町
住民啓発（広報誌、ポスター等）	全市町
イベント開催	広島市(10/26)、福山市(10/25)、廿日市市(10/5)、海田町(10月で調整中)
フードドライブ等	広島市、呉市、三原市、福山市、東広島市、廿日市市、海田町、神石高原町

5 今後の予定（10月食品ロス削減月間）

- ・事業者・市町等と連携し、県内全体でキャンペーン等についてSNS等で発信